

株式会社 成田製陶所

所在地:愛知県瀬戸市道泉町 70

事業内容:点火プラグ製造、セラミック部品製造
ガスバーナー製造

T E L:0561-82-5959



絶縁碍子からガスバーナーの燃焼体製造へ

創業当初は絶縁碍子の製造を手掛けていたが、その後、食品加工用ガスバーナーの燃焼体の製造を開始。現在では、ガス赤外線バーナー、ガス・石油機器用点火プラグ、フレームロッド、耐火物、ファインセラミックス、セラミックフィルター、一般碍子など営業種目は多岐にわたっている。

業況等の動向について

本業の動向について

創業当初は、絶縁碍子の製造を手掛けてきたが、その後、食品加工用ガスバーナーの燃焼体の製造を開始し、県内同業他社に先駆けてファインセラミックス事業を基幹事業とした。ファインセラミックスに対して絶縁碍子をオールドセラミックと呼んでいるが、現在では全生産品のうち 4 割にも満たない生産量で増減も殆どないため、本業との認識もなくなっているほどである。業歴は 100 年近くに及び、一定の営業基盤を築いている。

異業種参入事業の概要

現在の事業規模としては、売上高 1,800,000 千円を計上している。既往の利益蓄積から内部留保は潤沢であるが、最近の業況としてはリーマンショック以降、各方面での設備投資が止まっていることから停滞感がある。2012 年を不安視しており今年と変わらぬレベルを維持していけるよう努力をしていかなければならない。ファインセラミックスへの参入当時、製造したのは低熱膨張セラミックスを利用した食品加工用ガスバーナーの燃焼体であった。現在では、ガス赤外線バーナー、ガス・石油機器用点火プラグ、フレームロッド、耐火物、ファインセラミックス、セラミックフィルター、一般碍子など営業種目は多岐にわたっている。

異業種に参入した動機や経緯、きっかけ

新しいものに取り組みなければ事業が成り立たなくなってしまうのではないかと危機感から始まったと思われるが、取引先からの提案やアドバイスなどを頂戴して参入した事実もあり、古くから取引頂いているお客様には大変な協力を頂いている。取引先と密接に関わっている中での新規事業の開始でマーケティングも特にすることなくスタートを切ることができたようである。

歴史が古く具体的な資料なども残っておらず詳細は不明なもの、ガスの用途の移り変わり(ガス灯 調理加熱用工業用)を捕らえ、加熱を目的とした器具の国産化を試みたことがファインセラミックス事業参入のきっかけである。また、電極に関しては国内シェア 70%を占めるまでになった経験もあり、ファインセラミックス事業を牽引していた。しかし、10 年ほど前から中国製品の輸入が増加し、シェアを奪われており苦戦を強いられている。

参入して最も成果のあがったこと

電極(点火プラグ)の国内シェアが、最高 70%を占めたことで知名度アップに役立ったことが挙げられる。

参入して最も困難だったこと

初めて行う事業であったことから、試行錯誤の連続で失敗が付いて回ったことだと考えている。

参入に際して活用した自社の技術ノウハウについて

特に特許を取得して新たな事業に乗り出したわけではないが、碍子製造で培った焼物の基本技術は現在も大いに役立っており、今後もその上に成り立つ企業であることは間違いのないところである。

メリット・デメリット

メリットについては時期的に現在は無いと考えている。デメリットについては、投資した金額が回収出来るかどうかである。投資資金の回収リスクが高い。

異業種参入時のアドバイス

まずは、情報を収集した上で、よく吟味して見極めることが肝心である。そして、異業種へ参入することを決定したら、中途半端なことはしないことである。

行政の支援について

異業種参入に際し、役に立った行政、支援機関の制度

現在は、設備機器の導入に補助金を積極的に利用している。

異業種参入に際し、行政に対して望む支援

現在、補助金・助成金などを積極的に利用して設備の充実を図っているが、申請に提出する書類の作成には、かなり大きな労力を割かれるので簡略化して頂けると業務的に非常に助かる。

会社概要

設立:1948年(昭和23年)

資本金:4,800万円

従業員数:125名

URL:<http://www.naritaseitosh.co.jp>